

中高生の秘密基地◇b-i-a-b◇

(文京区青少年プラザ)

文京区児童青少年課長 矢島孝幸

文京区は、平成27年4月1日に、区内初の中学生及び高校生(以下、中学生という)向け施設「文京区青少年プラザ」愛称「b-i-a-b」(以下、ビラボという)を開設した。ビラボの運営方針は、

次のとおりである。

(1)「何かやってみようかな」を応援する
中学生の自主的な活動を応援するとともに、新たなことに挑戦する前向きな想いを受け止めることで、中学生が自らの可能性を広げる。

(2) 様々な人との関わりから社会性を育む
中学生が、地域の人をはじめとする様々な人との関わりにより、新たな人間関係を構築していく中で、自らの見識を広げ社会性を身につけていく。

(3) 地域の中の自分を自覚する
中学生が、地域の中における自らの存在を自覚し、社会参加のきっかけをつかむ場とする。

1 愛称は公募で決定

施設の正式名称は「文京区青少年プラザ」だが、より多くの中学生に親しんで利用してもらうため、開設備中の平成26年度に愛称を募集した。区内在住・在学の中学生を対象に募集したところ、17点の応募があ

り、審査の結果区内高等学校3年生(当時)の考えた愛称に決定した。ビラボは、bunkyo laboratory(研究所・実験室)の略称で、「中学生自らが主役となる未来をつくれるように」という願いが込められている。

2 開設までの経緯

平成14年2月の文京区青少年問題協議会「青少年の居場所検討部会」の報告書による提言等により、以前から、中学生の居場所に関する要望が寄せられていた。平成19年度以降、福祉センターと教育センターの建て替えについての検討を進めるに当たり、文京区教育センター等建物基本プラン検討委員会を設置した。同検討委員会青少年プラザ部会において、近いう将来、社会へ果立っていく中学生が、自ら社会性を身に付け自立した大人となるためには、家庭・学校以外に、気軽に集まれるのびのびと活動できる場や、自らの可能性を広げる場を提供することが必要であるとの結論に至った。また、狭義の中学生の居場所とは、中学生や高校生世代の特性にふさわしい施設であって、他の公共施設では応えられない設備・機

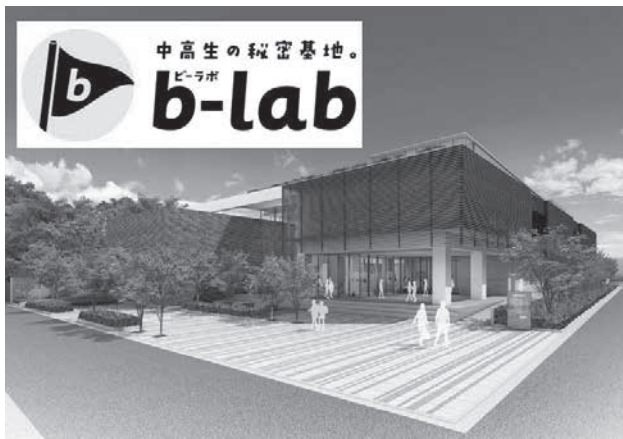
能を持つとともに、異年齢が交流できるような施設整備が望まれ、さらに、好きなことや興味のあることにも挑戦しようとする、中学生の多様なエネルギーを受け止める場や機会も必要であるとの結論に至り、同検討委員会に報告した。

なお、同検討委員会が、平成23年3月に策定した「文京区教育センター等建物基本プラン」では、教育センターは、福祉センター療育部門と青少年プラザを併せて、文京総合体育館跡地に複合施設として建設するとなった。平成24年4月には、区内中学生を対象とした青少年プラザの設置の検討に関するアンケートを実施し、同年5月には、中学生へのヒアリングを行った。アンケート及びヒアリングの結果は、施設の内容や運営方針を検討する際の、基礎資料とした。アンケートの「自由な居場所がほしい」という意見は、「放課後の秘密基地」というコンセプトに繋がることとなった。

そして、ビラボは、「文京区教育センター等建物基本プラン」に基づき、文京区教育センター(教員研修などの学校支援センター機能を持つとともに、児童発達支援センター事業や発達・教育にかかる相談支援等を行う施設)との複合施設として開設した。

3 施設概要

- (1) 場所 文京区湯島4-7-10
- (2) 開館日 通年開館
(年末年始を除く)
- (3) 開館時間 午前9時から午後9時まで
中学生の利用は午後8時まで



中高生の秘密基地。
ビラボ
b-lab

施設名	主な利用想定	有料貸出
中高生談話スペース	談話、読書、自習、PC貸出等	
ホール(※1)	ダンス、演劇、合唱等	○
音楽スタジオA(※1)	楽器演奏(グループ)	○
音楽スタジオB(※1)	楽器演奏(個人)	○
プレイヤード	屋外での軽運動(バスケットボール等)	
研修室(※2)	自習等	
軽運動室(※2)	屋内での軽運動(卓球等)	

- ※1 有料貸出施設(ホール、音楽スタジオA・B)は、中高生の優先予約後に、一般貸出を行っている。
 ※2 研修室及び軽運動室は、教育センターとの共用となり、教育センターでの利用がない時間帯(平日夜間、土・日・祝日等)に、自習等で使用。

4 開設準備期間におけるPRR活動

施設の開設を中高生に周知するために、開設準備中の平成26年度に、PRRイベント及び広報活動を実施した。

なお、PRRイベントの実施及び施設の管理運営は業務委託により実施している。委託事業者は、公募型プロポーザル方式(書類及びプレゼンテーションによる評価点に価格評価点を加えた総合得点)により審査し、認定特定非営利活動法人カ



タリバを選定した(以下、カタリバという)。カタリバは、平成13年から大学生と高校生が語り合うキャリア学習支援プログラム「カタリ場」の出張授業を全国約250校で行うなど、中高生の育成事業に実績がある。「カタリ場」は、大学生や社会人と高校生が進路の悩みや興味のある分野について語り合った後、先輩の話を聞くなどしてロールモデルを見つけるプログラムである。「カタリ場」は単発プログラムだが、これ以外にもカタリバは、東日本大震災の被災地である宮城県女川町や岩手県大槌町で放課後学校「コロポ・スクール」の運営を受託している。カタリバの中高生育成に関するノウハウを活かし、開設準備期間におけるPRR活動を展開した。

PRRイベントとして、区立中学校全10校を含む区内中学校及び高等学校18

校への学校訪問、対話イベント(カタリ場、音楽・ダンスイベント等)を実施した。また、広報誌を発行し、区内中学校、高等学校及び青少年関係団体等に配付するとともに、ホームページを開設し、PRRイベントと並行して広報活動も行った。

5 事業

定期講座として、開催曜日を固定し、次の5事業を実施している。自習応援！マナビ場(毎週木曜日)、英会話で！マナビ場(毎週土曜日)、はじめて講座「音楽編」(第一日曜日)、はじめて講座「スポーツ編」(第二日曜日)、先輩と語る座談会！カタリ場(第四日曜日)。

定期講座以外にも、一般の方も来場可能なイベントを開催している。5月には、開設を記念したオープニングフェスティバルとして、各分野で活躍する著名人や中高生のパフォーマンスマンスやワークシヨップ等を実施した。8月には、バンド演奏を中心とした、サマーフェスティバルを実施した。また、区立中学校全10校向けに、ビラポの疑似体験ができる「出張ビラポ」等の訪問事業も実施している。なお、事業の企画・運営には、公募による「中高生スタッフ」も携わっており、現在は、第4期・32名が活動している。広報活動としては、区内中学校及び高等学校向けに、広報誌を月1回発行し、ビラポの事業予定・報告等を行っている。また、「中高生スタッフ」が編集に携わるフリーペーパーを年2回発行し、区内中学校及び高等学校全生徒に向け、配付している。

6 利用者

4月～8月の延べ利用者数は、8,330人(一日平均55人)で、平日よりも

休日の利用者数が多く(休日が多い日には100人程度)なっている。延べ利用者数における中学生と高校生の割合は、ほぼ同じとなっている。初年度の平成27年度は、年間利用者数を14,360人(一日平均40人)と想定しており、平成27年8月末の延べ利用者数が、8,330人(一日平均55人)となっているので、想定よりも多くなっている。

平成27年8月末現在の登録者数2,256人に対し、延べ利用者数が8,330人となっており、平成27年4月から8月までに、一人につき約3.7回利用したこととなる。平成27年4月末現在の登録者数は758人、8月末現在の登録者数は2,256人と約3倍となっており、一定の継続利用者はいるが新規登録者も増加している。

なお、9月のシルバーウィーク中に、延べ利用者数が10,000人に達し、着実に利用が増加している状況である。

7 今後の展望

中高生の自主的な活動を支援し、中高生施策の拠点となるために、各種事業の実施及び広報活動を通して、ビラポへの興味・関心を、さらに高めていく必要がある。

そのためには、事業参加者へのアンケートを分析し、中高生の実情を踏まえた事業展開をすることにより、継続利用を促進するとともに、全区立中学校で実施しているビラポの疑似体験ができる「出張ビラポ」、区内中学校及び高等学校へ毎月送付している広報誌「ビラポ通信」等の広報活動を通して、新規利用者の獲得を図っていく。